



2021・5・3

第 408 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

今こそ市民が声をあげるとき

憲法 9 条破壊の新たな段階に立ちむかおう

2021.05.03 九条の会

戦争への痛切な反省の上に立って 1946 年 11 月に公布された日本国憲法は、この 5 月 3 日で施行 74 年を迎えました。前文で「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのない」ようにと決意して 9 条を定めたこの憲法を敵視し、改憲策動を続けてきた安倍晋三政権は、昨年退陣しましたが、後を継いだ菅義偉政権も憲法破壊の政治を一層進めようとしています。

バイデン米政権発足後初となる 4 月 16 日の日米首脳会談での共同声明は、日米同盟を「インド太平洋地域、そして世界全体の平和と安全の礎」であるとし、両国の軍事同盟が広大な地域を対象とすると宣言しました。とりわけ重大なのは、声明が「台湾海峡の平和と安定の重要性を強調」して、台湾有事に際しての米軍の軍事行動に対し、武力行使を含めた日本の加担を約束したことです。声明は中国との軍事対決を念頭に、日本の防衛力の増強、辺野古や馬毛島での基地建設の推進をも盛り込んでいます。日米軍事同盟強化と憲法 9 条破壊は新たな段

階に入りました。

声明は、こうした軍事同盟の強化を、中国による東シナ海や南シナ海での覇権的行動の抑止を理由にしています。しかし、これに、日米軍事同盟の強化で対抗することは、米中の軍事的緊張を高め、日本を巻き込んだ戦争の危険を呼び込むものです。憲法 9 条の精神のもと、国際法に基づく道徳を尽くした平和的な外交交渉で問題打開の道を拓くべきです。

今まさに、日本国憲法の価値を再認識すべき時です。全世界の人々がコロナ禍で苦しむ中、軍備の拡大や戦争に明け暮れていることは許されません。憲法前文の「全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する」との理念は、コロナ禍に苛まれる人々の命とくらしを守る政治を実現する上で大切な柱です。

九条の会も加わる「安倍 9 条改憲 NO！全国市民アクション」の運動や市民と野党の共同した取り組みは、安倍前首相率いる

9条改憲を阻止してきました。2019年の参院選では改憲派による3分の2の議席の獲得を許さず、2018年に自民党改憲推進本部が作成した改憲案の国会での提示や論議も押しとどめ、安倍政権を退陣に追い込みました。憲法施行後間もなくから始まった明文改憲の企てを、2度と侵略と暗黒の政治を許さないとの固い決意のもとに、国民は74年にわたって阻止し続けています。

ところが、菅政権は、一方で改憲案の国会での審議をすすめながら、「敵基地攻撃能力」の保有、日米共同声明により、憲法破壊を実質的に押し進めています。

今こそ、改めて、市民が声をあげるときです。菅改憲NO!の声を、地域草の根から、あげましょう。コロナ禍の中、工夫を凝らしてさまざまに行動を広げ、改憲発議阻止の署名を集めましょう。野党共闘が成果を上げています。市民の力で、来る総選挙では改憲反対勢力を大きくし改憲を断念に追い込みましょう。

東京五輪はやってもよいのか？

【岐阜県／岐阜・九条の会】

「岐阜・九条の会」主催の第352回くサロン9条>例会が、4月27日に開催されました。コロナ感染者が上昇中なので、参加者は少なく13名でした。

テーマは、東京五輪開催問題です。最初に、開催に疑問を投げかけたジャーナリストの青木理さんの録音を聞きました。その上で、吉田千秋さん(元岐阜大教授・哲学)から、筋道だった話題提供が行われました。

吉田さんはまず、この東京五輪の招致が嘘と買収疑惑から始まり、「復興五輪」ど

ころか、「復興阻害五輪」であったことを指摘されました。続けて、「コロナに対する勝利の証」というスローガンに切り替えたが、これも実際には、「何が何でも開催」という、いのち・人権の軽視の「コロナ終息阻害五輪」になり、即座に「開催中止」の判断を下さないと、悲劇が起こると批判し、今後、五輪憲章に基づいた改革の議論を呼びかけました。

参加者からも様々な角度からの疑問や意見が出されました。医療崩壊状況なのに看護師500名の派遣要請はまったくおかし、聖火リレーの強行は実際には協賛会社の宣伝活動だ、池江選手の活躍を利用するなど特にマスコミの煽りがひどい、反対だけれど言い出しにくい、など。

でもできるかぎり声を出していかなければならないと結んで終わりました。

オリンピックは5大陸の十分な参加で

【和歌山市／守ろう9条紀の川市民の会】 4月17日、和歌山市・河北コミュニティセンターで第17回総会を開催しました。総会では、神戸学院大教授(憲法学)・上脇博之さんが「安倍一管政権の憲法無視・破壊の政治と私たちの反撃」と題して、新型コロナウイルスの状況を考慮し、神戸市からオンライン方式で記念講演をされました。

開会に当り代表の原通範さんは、「今、新型コロナウイルス感染症は第4波に入ったと言われている。4月15日に自民党・二階幹事長は東京オリンピックを『これ以上とても無理だというなら、スパッと止めなければいけない』と言った。この発言の限りではよ

く言ったと思う。元来オリンピックは平和を願っての世界の一大事業で、根本原則に『活動は5大陸にまたがり、世界中の選手を集める時、頂点に達する』と言われる。コロナを危惧して、世界各国からのボイコットが増えれば、とうていオリンピックにならない。二階氏の発言へはこの限りでは支持できる」とあいさつされました。

つづいて講演した上脇さんは、「今、吾々に課されているのは、『明文改憲阻止』『戦争法などの憲法違反の法律の廃止』『戦争する自衛隊にしてはならない』などだ。今、市民連合と立憲4野党とで政権合意ができています。政権交代のカギは投票率のアップだ。がんばろう」と訴えました。

続いて宇田ともえさんを議長に選出し、「2020年度の活動報告」「決算報告」「2021年度の取組み課題」「運営委員の推薦」等の総会行事があり、いずれも承認されました。

(「九条の会・わかやま」424)

訴え聞いた高校生との対話も

【岡山県高梁市／高梁市9条の会・原水協地区協議会】 岡山県高梁市の9条の会と原水協地区協議会は4月22日、JR備中高梁駅・市図書館前で、「憲法9条を守ろう・日本政府は核兵器禁止条約に参加を」の横断幕を掲げながら、駅や図書館利用者に訴えるとともに「憲法をいかしてコロナ対策、核兵器禁止条約批准を」のチラシ配付などの合同宣伝を行いました。9条の会と原水協の合同宣伝は7回目。9条の会の毎月行動は通産172回目です。

この日の合同宣伝には7人が参加。会員

の「核兵器禁止条約に日本も参加をと書いたビラです。読んでみて」とチラシを配るなか、チラシを受け取った男子高校生2人。そのうちの1人が「核兵器って1945年に使ってそれから使われていないの?」と質問。「実際の戦争では使われていないけど、そのあとも核実験が行われて、放射能の被害を世界でたくさんの方が受けているんだよ」などの対話が弾みました。

また、もう一人は、スマホを手に「(横断幕を)撮っていいですか」と。「いいよ。SNSにアップしてくれるん?」と言う会員に「じゃ、アップします」と、その場で撮影した写真に“核兵器反対”のコメントをつけて即アップしてくれました。

高校生と対話した9条の会員は「チラシを受け取ってもらえないときなど気持ちが折れることもありますが、今日のような素敵な体験もできます。行動に参加して良かったです。次回も参加します」と語っていました。(高梁9条の会事務局・小阪洋志記)

米日首脳会談の内容など批判

【奈良県広陵町／広陵九条の会】

広陵九条の会は4月19日行動しました。当初、近鉄五位堂駅前では計画していましたが、大阪に新型コロナの「まん延防止など防止措置」が発令され、2週間たっても毎日新規感染者が増えつづける状況を考慮して、場所を平尾の「エバグリーン」前に変更し、ビラ配布と署名はやめ、16:30～17:15 マイク宣伝と横断幕とアピールボードを掲げてのスタンディングを行いました。

マイク宣伝ではコロナ感染防止対策の抜本的強化、バイデン・菅日米首脳会談で合

意した内容の危険性、憲法審査会で欠陥を残したままの与党提出国民投票改正案を強行し、改憲発議を狙う動きを許さないこと、菅政権に核兵器禁止条約の批准を求めることなどを訴えました。

エバグリーン前での宣伝は初めてでしたが、買い物客も多く、11人の参加で活気ある宣伝行動になりました。

(「九条の会奈良県ネットワーク」)

身近な生活問題テーマに例会

【東京都調布市／調布九条の会】

調布九条の会が主催する「憲法ひろば」165回例会は4月10日、「あくろすホール」で、調布・東つつじヶ丘住宅街での「陥没・空洞」問題を中心に、シンポジウム「外環など陥没・空洞と憲法」を開きました。シンポジウムでは、菊池春代さん(外環被害住民連絡会・調布共同代表)、野村羊子さん(東京外環道訴訟原告・外環ネットワーク)、三木一彦さん(リニアから住環境を守る田園調布市住民の会代表)の3人の方がパネラーとして報告、調布「憲法ひろば」の丸山重威さんがコーディネーターを勤めました。

シンポジウムは「外環ネット」のご協力で、初めてZOOMによる配信も実施。参加者約50人、オンライン視聴者も約50人に上り、コロナ禍を超える規模になりました。

(調布九条の会「憲法ひろば」第191号)

沖縄の闘いをDVDで学ぶ

【東京都江戸川区／九条の会・葛西】

4月24日、近くの区民館で、ドキュメンタリー映画「OKINAWA 1965」

の上映会を行った。

コロナ禍で活動が制約されている中、沖縄出身者でこのDVDを持っていた人がおり、辺野古埋め立て土砂の問題、中国の海洋進出を巡る米中の対立の中、あらためて沖縄のことを考えたいと思った。

70名定員の半分位を予定したが、45名の参加者。嬉野京子さんの1枚の写真から始まり、1972年までの本土復帰闘争、なくならない基地、新たな辺野古基地建設反対闘争。食い入るように視聴した。

次のような感想も寄せられ、充実した上映会となった。

○ 68・4・28 海上大会に参加したこと、一生の記念です。その後大学は全共闘との闘いも含めて大変な時代に入りましたが、集会の時には必ず、沖縄を返せ“を叫んでいました。今日あるのはこの頃の産物だと思っています(わたしの原点)。

○ あらためて沖縄の歴史や人々の想いに触れることができました。また、米中の動きに連動した平和に関することを考えさせられました。九条は日本人の“ほこり”です。

○ 「小指の痛さを全身で知れ」という言葉が思い起こされました。ヤマトンチューの心と行動が問われています。

○ 「不条理なことが行われていたら、ふつうの市民が駆けつけてそれを止めさせることが、最大の安全保障ではないか」の言葉が深く心に残りました。

また、この日は「東京に九条の碑を」の募金を訴え、多くの募金がよせられた。

(九条の会・葛西のこれまでは、次号で紹介します)